

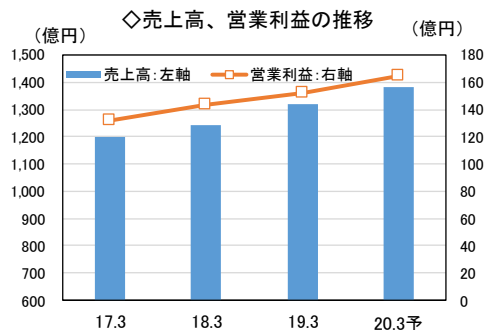
企業ニュース アマノ

(東証1部 : 6436) <http://www.amano.co.jp/>

作成者:奥村義弘

時間、環境を軸に事業展開

1931年創業。出退時刻を記録する国産初のタイムレコーダーを開発。工場の作業環境の改善につながる機器として工業用クリーナー、タイムレコーダーとコンピューターを結び複雑な勤怠管理を解決する情報システム事業、国内初の駐車場発券機など事業を拡げた。現在では「人と時間」「人と環境」をテーマとしてグローバルに事業を展開している。19.3期の売上高構成比は時間情報システム事業73.4% (情報システム22.2%、時間管理機器2.7%、パーキングシステム48.5%)、環境関連システム26.6% (環境システム18.1%、クリーンシステム8.5%)。18.3期~20.3期までの中計では、「100年企業への2nd Stage - 持続成長のための革新的価値創造 -」を経営コンセプトとして掲げ、売上高1,380億円以上、営業利益165億円以上の達成を目標としている。



(出所)アマノ資料よりCAM作成

「働き方改革」を追い風に時間情報システム事業が好調

20.3期・第1四半期(4-6月)の連結業績は売上高が304億円、前年同期比8%増、営業利益が23億円、同65%増。アマノ単体は「働き方改革」が追い風で主力の就業管理ソフトが好調を維持した。環境システムも大型システムが好調で伸長した。国内グループ会社では駐車場管理受託事業が堅調に推移した。海外ではアジア地域のグループ会社が好調を維持、北米アマノマクガン社(AMI)の赤字幅が縮小し、海外全体としても増益となった。なお前第1四半期は、アマノ単体のソフトウェア償却費の負担増や株式給付信託制度導入による経費増及び北米のAMI社の赤字拡大に伴い、減益決算となった。今期は反動増となり増益幅が拡大した。

20.3期の会社計画は売上高が1,380億円、前期比5%増、営業利益が165億円、同9%増を据え置いた。情報システムが売上高315億円、同8%増とけん引する。「働き方改革」関連で企業向け就業管理システムの受注、販売増が見込まれる。パーキングシステムも売上高675億円、同6%増と堅調な伸びを見込む。アジアでの堅調な駐車場運営受託等の拡大、北米のAMIでの不具合対応による収益改善効果などが見込まれる。

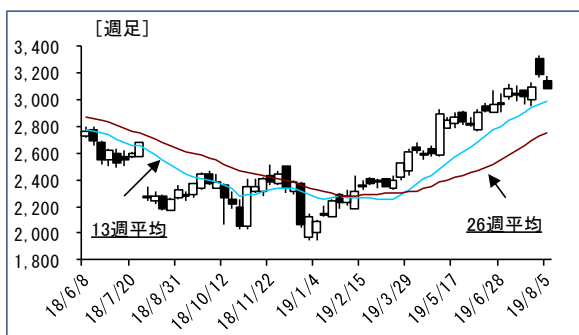
[株価動向・投資判断]

「働き方改革」のキーワードを持つ好業績銘柄として引き続き関心を集めよう。

<6436 アマノ 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	124,405 (4)	14,350 (9)	15,060 (9)	10,019 (9)	132.1	57.00
19.3	131,713 (6)	15,161 (6)	16,090 (7)	9,142 (▲9)	121.2	80.00
20.3 予	138,000 (5)	16,500 (9)	16,900 (5)	11,000 (20)	147.2	64.00



[主要株価指標] (売買単位:100株)	
株価(2019/8/5)	3,085 円
年初来高値(高値日)	3,335 円(19/7/29)
同 安値(安値日)	1,944 円(19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	21.0 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,376.5 円
P B R	2.24 倍
予想配当利回り	2.07 %
(1株当たり配当金64.00円)	
R O E (19.3)	8.7 %
発行済み株式数	7,666 万株